

Glocal Tenri



月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.20 No.9 September 2019

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

9

CONTENTS

- ・ 巻頭言
「救かる身やもの」
／堀内みどり..... 1
- ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道の様相 (33)
ニューヨークの日系人と天理教伝道④
／尾上貴行..... 2
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (36)
「おさしづ」第4巻における教会事情と「道」
／澤井治郎..... 3
- ・ 日本語教育と海外伝道 (14)
日本語教育での教授法について①
／大内泰夫..... 4
- ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (12)
「ひとりぼっちのテーマソング」 単独者とは
／金子 昭..... 5
- ・ 遺跡からのメッセージ (49)
弥生時代を再考する③ 登呂遺跡の平成と昭和
／桑原久男..... 6
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関係試論 (28)
フルベール・ユール初代大統領①
／森 洋明..... 7
- ・ 現代宗教と女性 (25)
「優生保護法」改定阻止運動②
／金子珠理..... 8
- ・ 思案・試案・私案
「碑」の字表記問題再考 (2)
／八木三郎..... 9
- ・ 2019 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』に学ぶ (5)
第3講：72「救かる身やもの」
／澤井義次..... 10
- ・ 図書紹介 (115)
『スーフィズムと老荘思想—比較哲学試論』
／澤井 真..... 11
- ・ おやさと研究所ニュース..... 12

「第 61 回印度学宗教学会学術大会」、天理大学で開催 (堀内みどり) / 「第 8 回南・東南アジア文化・宗教会議 (8th South and Southeast Asian Association for the Study of Culture and Religion)」に参加して (堀内みどり) / 2019 年度公開教学講座の案内

巻頭言

「救かる身やもの」

おやさと研究所主任 堀内みどり Midori Horiuchi

「明治十三年四月頃から、和泉国の村上の推進、時代的な要請が相俟って具体化幸三郎は、男盛りのさ中というのに、坐しました (『おやさと研究所五十年誌』参骨神経痛のために手足の自由を失い、激照)。名称を「天理文化研究所」、そして「宗しい痛みにおそわれ、食事が進まない状態となった。」

これは『稿本天理教教祖伝逸話篇』72「救かる身やもの」の冒頭です。その後、教祖 (1994) 11 月 14 日、50 周年計画委員会中山みぎに会いに行った幸三郎は、教祖から「救かるで、救かるで。救かる身やもの。」が発足し、『おやさと研究所五十年誌』のこの言葉をかけられます。たすけられた幸三郎は、教祖に「恩返し」をしたいと申し編纂発行と「公開講座」の開催が決まっていきました。翌年 5 月 28 日、50 周年記念の公開講演 (中島秀夫「現代宗教事情と布教・伝道」、芹澤茂「『たすけ』への参加—その理念と展望」) が行われ、その翌月の 6 月から 12 月にかけて毎月 25 日の午後道友社ホールを会場に「天理教の布教伝道—その理念と展望」を統一テーマとした連続の公開講座を開催しました。

『逸話篇』は、天理教を信仰している人々によって、とても親しみをもって、また、参加者からの要望もあり、公開講座は現在日々の来し方の指針を温めて読まれています。簡潔ではあるけれども、描かれた逸話の一つひとつからは、教えの親である教祖のありようが優しく伝わります。そして、教祖に直接接し、たすけられた人の“たすけられ方”が、今に生きる私たちに語りかけ、進むべき方向性を指し示してくれます。

さて、「救かる身やもの」と言われる一人ひとりは、「救けてもらった喜びで人を救ける」ことができます。それは“互いにたすけ”ということであり、布教伝道の先人の体験を学び、それを今に映していく教学研究の場ともなっています。「救かる身やもの」の逸話は、今年度第 3 回 (6 月) で取り上げられた逸話です。

昭和 17 年 (1942) 12 月 31 日、おやさと研究所 (中山正善 2 代真柱総裁、高橋道男所長) は、天理教教庁附属の研究機関として「天理教垂細亜文化研究所」の名で設置され、研究者の養成、海外伝道